

高大連携

瀬戸高校での探求学習サポート

鈴木 真理子



概要

瀬戸高校・乙部憲彦校長より依頼があり、「[総合的な探求の時間～ひたぶるタイム～](#)」でのグループ探求学習において、グループ個別のメンタリングを実施した。探求学習のテーマは『2030を見通した地域の課題について、SDGsから何を考えるか。提案できるか。』

対象

- 岡山県立瀬戸高校 2 年生

目的

- デザイン思考で進めている探求学習プロセスで、プロトタイピングの段階にある高校生に対し、課題を解きほぐし、方向性を見つけていくサポートをすること。
- [アントレプレナーシップを養成する代表的な学習方法・思考法である「アクティブラーニング」「デザイン思考」](#)を実践している先進的な瀬戸高校において、実際にどのように課題研究をまとめていくのか、を知ること。

実施概要

- 日時：2019年12月17日（火）
- 場所：岡山県立瀬戸高校 会議室
- 相談数：4チーム（15名）
- [Facebook](#)

所感

大学に入学してくる前の高校生がどのように課題研究をまとめていくのか、を知る良い機会となり、今後、大学でのPBLを進めていく上で、大変参考になった。

まず、相談に来た生徒達は、皆、真面目で素直で一生懸命であった。そして何より、先生方との信頼関係がしっかり構築されていることに感銘を受けた。このようなPBLを効果的に進めるのは、何をおいてもこの信頼関係の構築が重要であることを再認識した。

話を聴いた4チームとも、自分達が（社会に）伝えたいことは既に固まっており、それを「誰に、どう伝えれば、相手が行動を起こすのか」に詰まっているように見えた。そこで、質問を通して高校生たちの中から考えを引き出し、一歩二歩踏み出してみたいくなるようなコーチングを目指した。ただ、相手は高校生なので、もう少し具体的な知恵やアドバイスを必要としていた感もある。今後は、両面でのサポートができるとよい。

瀬戸高校の「総合的な探求の時間～ひたぶるタイム～」は、今年度、経産省&文科省 キャリア教育推進連携表彰 優秀賞受賞するなど、大変先進的な取り組みである。今回、校長先生の強いリーダーシップのもと、エネルギッシュな教員複数名のイントラプレナーシップが原動力になって、受賞に繋がっていると感じた。

今後への期待、計画

大学教員からの視点だけでなく、大学生から高校生へのフィードバックの機会があると、双方にとって学びが大きいと考える。高校側も、そのような形ができたら嬉しいとのこと。

大学生側には、何でも教えてしまうのではなくて、相手から引き出し、伴走するコミュニケーションスキルの研修を事前しておく必要がある。

地域総合研究センターやSDGs アンバサダー等と連携し、授業や正課外学習に組み込んで、システム化していく方向を探る。